



まくらだより

第47号

2019年2月15日



●理事長より 新年のご挨拶

●2019年4月OPEN!
墨染 新規事業のご紹介

特集 鷹匠の家ほっこり

●福祉×ヘルプマーク
ヘルプマーク、ヘルプカードを
知っていますか?

●事業所リレーコラム ●編集後記

●FREE
春のお出掛けにいかがですか?

新年のご挨拶

社会福祉法人 京都老人福祉協会 理事長 三代 修



平成も最後の年となり、新しい出立の年を迎えています。

しかしながら、日本社会の行く末については大きな不安を伴っているのも事実でしょう。代表的なものに、少子高齢化と人口減少社会への対応が挙げられます。

平成の30年の間に社会福祉、社会保障を巡る環境は大きく変貌しました。その間、高齢化率は12%から27%へ急増しました。介護は、施設中心から在宅サービスの整備へ、また平成12年には介護保険の導入という大変革、そして地域包括ケアシステムへ軸足を移してきました。

『ぼけ老人』『痴呆症』『認知症』と高齢者に対しての人権への意識も変化してきています。世帯事情も変わり、単身、夫婦のみ高齢者への見守りや介護も重要視されています。

子育て分野でいえば、合計特殊出生率が戦後すぐ（第一次ベビーブーム時）には4・0以上あったものが、平成が始まる時には1・54になり、平成17年の「1・26ショック」から平成29年には1・42まで回復していますが少子化に歯止めがかかりません。一方、専業主婦世帯と共働き世帯の数が逆転したのが平成5年から10年ぐらいにかけてです。女性も社会で働くことが標準的なこととなってきていますが、保育所整備などの施策はまだまだ遅れているのです。

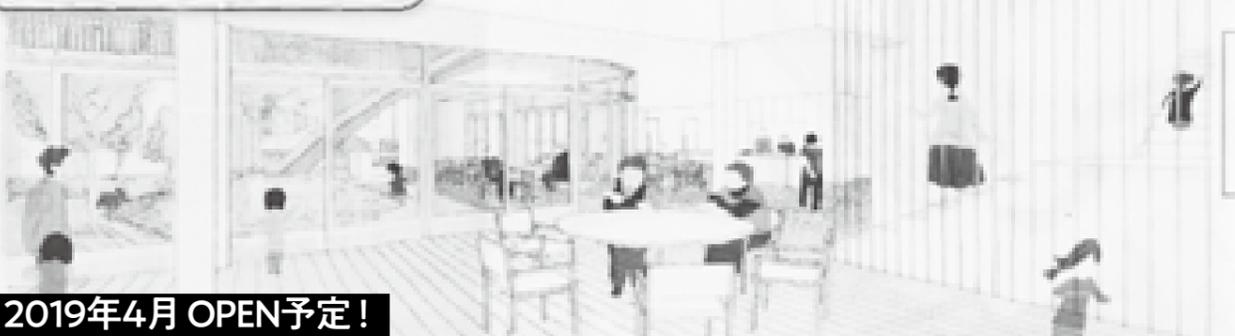
活支援と繋がってきます。それをどう活かすのかというソフトの開発段階に入っています。

人口減少時代の中で、介護・福祉を担う人材不足が大問題になっています。日本の国全体で働き手が足りないのですから、長く3K職場としての汚名を浴びてきた介護などの職種が特に深刻なのは当然でしょう。給与改善やイメージアップに努めるのは当然としても、働き手が減り続けることは当面まちがないので、少ない手間で大きな成果を出せる工夫が必要でです。

京都老人福祉協会では、地域の中で暮らすことでご本人の力とやる気を大切に、住み続けられる地域包括ケアを事業の中心と考えています。そんな中で、地域や身近な人たちの力も借りて地域づくりをすることが最も重要なことと考えています。2月より伏見区役所前に「**鷹匠の家ほっこり**」、4月から京阪墨染駅前に「**墨染まちとくらしセンター**」を開設致します。より地域の中で結びつきたいとの思いからです。

平成の次の時代が、平和で安心できる世の中であり続けることを願いながらも、新しい時代の流れや変化に機敏に対応できる法人でありたいと考えております。

京都老人福祉協会は
2019年4月より、
新しい施設をスタートさせます！



2019年4月 OPEN予定!

新規事業のご紹介

企業主導型保育事業

従来の『企業主導型保育所』を地域の事業所（サポート企業）でシェアする仕組みです。保育園を設置・運営している京都老人福祉協会の職員のお子さんを主対象として保育しますが、サポート企業と提携することで、サポート企業先の従業員のお子さんも保育することができるようになります。また、従業員枠とは別に地域枠を設定し、地域のお子さんを保育することもできます。

開園日時●月曜日～日曜日 7:00～20:00
(※週7日型・13時間開園)

対 象●0歳児から小学校就学前まで

定員(予定)

0歳児
6名

1歳児
10名

2歳児
10名

3～5歳児
合わせて
4名

看護小規模多機能型居宅介護

デイサービスのような「通い」、ヘルパーのような「訪問」、ショートステイのような「泊まり」のサービスを柔軟に組み合わせた在宅介護のサービスを同じ事業所が担当します。

利用者さんやそのご家族となじみの関係が作りやすく、情報共有もしやすいというメリットがあります。

定員
29名

通いサービス
利用定員
18名

宿泊サービス
利用定員
6名

看護職員が常駐することで、医療ニーズの高い利用者の状況に応じたサービスと多様な療養支援を行うことが出来ます。

例えば…

- ・退院直後の在宅療養生活へのスムーズな移行支援
- ・ご家族がリフレッシュするための支援、相談対応による不安の軽減
- ・ガン末期の看取り期・病状不安定期における在宅生活の継続支援

墨染まちとくらしセンター 住所：京都市伏見区深草石橋町18-9 (京阪墨染駅から徒歩1分)

お問い合わせ先

京都老人福祉協会事務局 TEL:075-641-6625 住所：京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59・60

竣工式の様子

少し雪が降る1月29日に竣工式が行われました。地域の皆様や関係機関の方々がたくさんご出席くださいました。ありがとうございました。竣工式のあとは祝賀会が行われ、きっちんさくらの職員によるお料理が振る舞われました。



卍

総合相談支援事業 にじまち相談スポット

鷹匠の家ほっこりのめざすところは、地域に住むすべての人との心の結びつきです。

誰もが立ち寄っていただける、どんなことでも相談できる、総合相談窓口としてお役に立ちたいと考えています。地域や関係機関、医療、福祉、介護との連携はもちろんですが、お一人おひとりとの信頼のかけはしを築いていきたいと考えています。

未来スペース・楽水乐山

『楽水乐山』とは「知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ」という孔子の論語から名付けました。世代を超えて集い、お茶を飲みながら学びあう、好きなことを語り合い豊かな時間を分かち合う、そんな思いが込められています。

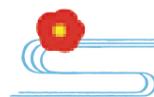


未来スペースでは異業種や他職種での研修やサロン、ワークショップなど介して人と人が出会い、つながり、共に未来を創造していく特別な場所にしていきたいと考えています。

共に生きるの実践

京都老人福祉協会の理念『尊厳、信頼、先駆、共同』に込められているのは、まさに『共に生きる』の実践です。どんな障がいがあろうと、高齢になろうとかけがえのない一人の人間として尊重し合い、助け合い、ごく当たり前の地域生活の中で共に過ごせる場所、共に夢や未来を語り合える場所として、地域の皆さんの鷹匠の家ほっこりで在り続けたいと考えています。

〒612-8062 京都市伏見区鷹匠町13-1 TEL:075 (622) 9545



名水が豊かで酒処として有名な伏見の町に新しい事業所「鷹匠の家ほっこり」が2月に開設されました。施設周辺には伏見区役所や長いアーケードが続く大手筋商店街、少し足を延ばせば坂本龍馬が通っていた船宿で有名な寺田屋があり、歴史に深く関わりのある地域でもあります。

居宅介護支援事業所

介護支援専門員（ケアマネジャー）が、暮らしのお困り事の相談と、ご本人の思いに添いながら介護のサービス計画（ケアプラン）を作成し、在宅生活を支援させていただきます。

地域密着型 特別養護老人ホーム

地域にお住まいの方に利用していただける特別養護老人ホームとなります。利用できるのは京都市にお住まいの方で原則要介護3以上の方となります。

2階に12名、3階に10名、合計22名の方に利用していただけます。全室個室で各お部屋にはトイレがあります。



小規模多機能型 居宅介護

小規模多機能型居宅介護は住み慣れたご自宅を中心に「通い」「泊まり」「訪問」を柔軟に組み合わせたサービスです。鷹匠の家ほっこりをご自宅などにお住まいの方をできるだけ長く支援し、在宅での生活が難しくなられた時には通い慣れた「鷹匠の家ほっこり」の特養への入所希望の提案も考えています。住み慣れた地域で、その方がその人らしい暮らしを送れるよう応援していきます。



特集

新しい事業所が
誕生しました



「伏見センターつどいば」は平成28年12月にオープンした介護予防・日常生活支援総合事業に特化した「デイサービス」です。つどいばが考える「総合事業」とは、要支援者の方々が「やりたい」「やってみたい」と意欲を持って取り組めるようになりやすいサービス（調理活動・体操・ハガキ絵・小物作り・習字・コース）を提供し、その結果として地域の支え合いの仕組み作りのお手伝いを事業として行い、高齢者がいつまでも地域で元気に楽しく活動、活躍できるように支援することと考えています。始まった当初は少

なさんと関わっています。つどいばをご利用される方は身体的にはお元気な方がほとんどですが、いろいろな悩みや不安、そして課題をまとめておられます。それらを解決するため「意欲的に取り組んでいただける仕組み」と「取り組みを通して自分を表現できる機会の提供」を目指し、いろいろな所で勉強させていただいています。その中にさまざまな団体や地域の方が活躍しておられる「サロン」や「居場所」があります。高齢の方や障がいをお持ちの方、子どもたち、そして若い方が力を合わせて地域で頑張ってお

られる姿にたくさん出会いました。そんな時、「介護の仕事」である「人との繋がりを作っていく」「相手の思いに寄り添う」ところがとても大変で大切なことだと改めて気付かされました。今後この2年間の「人との繋がりを大切にして、伏見センターに関わってくださいというみなさんに愛される、「ほっ」としてもらえる「つどいば」として地域に貢献していきたいと思っています。

事業所
リレー
コラム

モットー、ハッピー、笑顔、元気、元気、元気

いろいろなひとが
「ほっ」する「場所」に

伏見センターつどいば

人数で「ちよつと名前負けしている…」と感じつつ約2年が経ち、現在、職員5名と講師の方々6名で



福祉 × ヘルプマーク

ヘルプマーク、ヘルプカードを

本来は赤地に白のマークです。



知っていますか？

近頃、このマークをよく目にするようになりましたが、どのようなマークかご存知でしょうか？

これは「ヘルプマーク」といい、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても支援や配慮を必要としている方々が、周囲の方に知ってもらうことで支援を得やすくなるよう、2012年に東京都福祉保健局が作成したマークです。ヘルプマークを着用していることで、緊急時（外で倒れたとき、事故に巻き込まれたときなど）に適切な対処を受けられるようになります。

必要に応じて支援してほしい内容を付属のシールに記入し、マークの裏面に貼ることができます。また、連絡先や障がいの特徴、支援してほしい内容を記載する欄がある「ヘルプカード」というものもあります。これは支援が必要な方などが災害時や日常生活の中で困った時に、周囲に自己の障がいへの理解や支援を求めるためのものです。

対象者

市内に住民票のある、次のいずれかに該当する方

- 1、身体障がい者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳を持っている方
 - 2、難病患者
 - 3、発達障がいのある方
 - 4、援助や配慮を必要としている方
- 詳しくは区役所窓口ほか

このマークを見かけたら…

● 日常的
例) 耳が聞こえないので筆談でお願いします。
同カードを提示された場合は、記載されている内容の援助をしてください。

● 急病・パニック時
例) 薬は〇〇に入っています。
発作が起こった時などは、カードに記載されている対処方法を実践してください。

勇気を出して手助けできたらいいですね

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。障がいがありながら社会で活躍している方はたくさんおられます。このマークを見つけたら様子を伺い、いざというときは支援できるように、マークの意味を知っていただきたいです。

■ 編集後記 ■

「さくらだより」って広報委員会が作っていたのかぁ。そんなことを思う方もたくさんおられるのではないのでしょうか。広報委員になるまで私もそう思っていました。実は法人内の事業所内容や、福祉の情報など思わず「へえ〜」と思う記事がたくさん詰まっています。皆さんもぜひ読んでみてくださいね！ 広報委員 鳥飼美由紀

春のお出掛けに いかがですか？

少しずつ春の訪れを感じられる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。寒さも少しずつ緩み、花々もほころび始め、春の訪れを感じられます。今回は、見頃を迎えている代表的な花言葉と京都の花の名所をご紹介します。



カーネーション



花言葉
「母への愛」

母の日の贈り物といえば、カーネーションですね。旬の季節は春で開花時期は、2月から5月です。花持ち期間は、7日から10日程度です。1914年にアメリカで5月の第2日曜日を「母への感謝を表す日」として記念日にし、日本でも1949年頃から5月の第2日曜日を母の日とするようになりました。

花言葉

「快活」「明るさ」

つぼみの緑と鮮やかな黄色の花のコントラストが春らしい菜の花、「菜」は食用を意味し、「菜の花」とは、食用の花という意味になることが由来になっています。花言葉の「快活」「明るさ」は、春の香りを運び、人々の心を明るくする、その花姿に由来するといわれています。京都府の菜の花の名所は、京都市左京区大原にある「大原の里・菜の花畑」。道沿いが一面菜の花畑になります。4月上旬から5月上旬まで楽しめます。



菜の花



パンジー

花言葉「物思い」「私を思って」

ガーデニングでおなじみのパンジーは12月から咲いており、今まさに見頃です。パンジーには、こんなロマンティックな伝説があります。『ある日、天使が春の野に降り立ち、美しいスマレの花にそっとささやきます。「人々に、真の愛の心を伝えておくれ。私たちの面影をお前たちに移してあげるから。」天使はそういったあと、花に3回キスをします。それからスマレの花は三色に分かれ、パンジーになりました。』

梅

花言葉

「高潔」「忠実」「忍耐」

早春の花と言えば、やはり梅でしょうか。今号をお届けする頃に、盛りを迎えていることでしょうか。古く奈良時代は、「花」と言えば梅の事を指していたとも言われます。伏見区内では、城南宮の梅林が有名です。



椿

花言葉

「控え目な優しさ」「誇り」

最盛期は1月から2月。大輪の花をつける椿の花言葉に「控えめ」とある理由は、花に香りが少ない事が挙げられます。右京区の広沢池には、谷崎潤一郎の「細雪」に登場する椿があるそうです。伏見区内では、城南宮の椿が有名です。名作文学とともに、椿を楽しんでみてはいかがでしょうか。

